

2013年 1月 28日

No.28

J R 東海 労新幹線関西地本

ホームページ: http://www.geocities.jp/jrcu_s_kansai/

メール: jrcu_kansai@ybb.ne.jp

Change

再び三度発生した 未来ある青年の、早すぎる選択！！

2013年1月21日13時、悲しい読経の声が響き渡り、多くの参列者に見送られて一人の青年の葬儀が恙無く終えた。

2010年にも同じ悲劇が！！

2010年8月20日21才の青年が、自らの命を絶つという悲しい事態が発生しました。私たちは、同じ悲劇を二度と起こさないために、明るくイジメのない、悩みを相談できる職場環境を作るため奮闘してきました。

この青年のご両親は「この会社（J R 東海）で二度と同じ思いをさせる若者が出ないように」と J R 東海で働く若者たちの将来に対して思いを述べておられました。最愛の息子を亡くされた悲しみは計り知れないものだったと思います。当時、青年の職場である台車検査車両所の所長はじめ管理者は彼の死に対して、「不慮の事故です」「詮索は辞めましょう」「静かに見守りましょう」と無くなった事実や原因について隠そうとしました。そして2013年、同じ悲劇が！！

未来ある21才の青年は

何故、命を絶たなければならなかったのか！

2013年1月、米原駅の青年が自らの命を絶つという悲しい事態が発生しました。

彼は昨年9月、出勤遅延（遅刻）を起こし1週間の懲罰的日勤を強いられ、反省文を書かされました。以後、出勤時刻の1時間前に出勤することが義務づけられるようになりました。そして1月1日（9時出勤）8時40分に出勤したところ、1時間前出勤ができていない「出勤遅延未遂」と称して、再び1日中事情聴取が行われ、私生活について状況を報告するように詰問されました。そして報告日である1月4日、職場に現れることなく、彼は行方不明となり、1月17日、最悪の結果で発見されました。

私たちは、未来ある21才の青年が、何故そこまで追い込まれたのか？何故命を絶たなければならなかったのか？その真実をこれから究明していきたいと思えます。